Anchor's PERSON

キャスト住建 株式会社
代表取締役

山根 直記

「建設業は、お客様の一生に一度の買い物を手掛けさせていただく仕事。
それは、とても光栄なことであり、夢のある仕事なのです」――
昨今、人手不足が深刻化している建設業界。
技術の継承が危ぶまれる中、山根社長は、若い人材が夢を持てる業界にしたいと、
待遇面の向上や、仕事の魅力を伝えるための活動に動き出している。
建設業界の未来が明るいものになることを信じて、社長は今日も奮闘するのだ。

「先達が培ってきた技術を継承し、建設業界の未来を支えたい」

© 2021 HOUDOU-TSUSHINSHA Co.,Ltd.

建設業には夢がある――仕事の魅力を後進に伝え未来につなげたい

▼広島県安芸郡に拠点を置き、新築アパート・新築戸建て・リフォーム工事などを中心とした、大工工事業を手掛けている『キャスト住建』。山根社長は、お客様の夢を叶える手伝いをする仕事として、誇りを持って日々業務に打ち込んでいる。本日は、そんな社長にタレントの布川敏和氏がお話を伺った。

代表取締役

山根 直記

INTERVIEW

――まずは、山根社長の歩みからお聞かせ下さい。

ここ広島県出身です。20歳の時に建設業界に入りました。当時はバブルの余韻がまだ残っているころで、学歴がなくても身体を動かして稼げる時代。私は、自分はサラリーマンには向いていないと考えて、妻と一緒に個人事業主として、足場工事会社や機材屋さんから仕事を請け負っていました。そうして5年ほど経った時に、私が建てた足場を使って下さっていた工務店さんの社長から「住宅の建設をやってみないか」と声をかけられまして。それで、大工として仕事をするようになったのです。

――では、改めて大工として修業を積まれたのですか。

ええ。ただ、そのころには従業員を抱えていましたから、一から親方に弟子入りをするのは難しかったのです。そこで、大工として技術を持つ人材を雇って、一緒に現場に出ながら教えてもらいました。そうして、工務店として新築アパート・新築戸建て・リフォーム工事などを中心とした、大工工事業をメイン事業に展開を進めてきたのです。

――昨今はコロナ禍に見舞われて、世界中が厳しい状況下に置かれていますが、御社ではいかがでしょう。

少なからず影響はありますね。もともと建設業界は深刻な人材不足にあり、さらに現場の単価は低下傾向にあります。そのため、大手建設会社でさえも若手が減っており、技術の継承が難しい状況にあるのです。その対策の一つとして、若い外国人労働者の受け入れがあったのですが、新型コロナの影響により今はそれも難しくなってしまいました。外国人労働者の皆さんはハングリー精神があり、真面目な人材が多いので、この状況はとても残念ですね。

――最近はどの業界も人材不足が深刻と聞きますが、建設業界も例に漏れずでしたか。

ええ。時に震災後の復興に行くこともあるのですが、以前阪神・淡路大震災の復興のため被災地に入った時には、私をはじめ従業員も皆若く、頑張ることができました。しかし、熊本地震の復旧作業では、体力的に長い作業が難しくなってしまっていて。場合によっては、被災地の方々に迷惑をかけることになりかねません。被災者の方々は一日でも早い復興を願っており、私共も力になりたい。しかし身体が動かない……。その状況を目の当たりにして、やはり若い人材の確保・育成は急務であると痛感しました。

――決してなくなることのない、大切なお仕事ですから、是非とも若い方々に入ってきていただきたいです。

最近は特に、職場でのコミュニケーションにストレスを感じる方が増えているように思います。そのため、建設業に多い師弟関係のようなものが煩わしいのでしょう。また、子どもたちのなりたい職業としてYoutuberに人気が集まったり、IT企業への就職を目指す若い方が増えていたりしますよね。今の若い方々は、きっとそういった職業に夢を抱き、工務店には夢を感じないのかもしれません。布川さんのほうがよくご存じだと思いますが、芸能界でも、芸人さんや俳優さんたちは、アルバイトをしながら必死に下積みをしますよね。それは、芸能界に夢があるからだと思うのです。だから、苦しくても耐えて、頑張ることができる。建設業界でも、それくらいの夢を持てるような環境を作りたいですね。

――建設業界は、人々に夢を与えられるお仕事だと私は思います。たとえばマイホームは家族皆の夢であり、それを作り上げるお仕事なのですから。

おっしゃる通りです。確かに、芸能人やYoutuberの皆さんよりも儲からないかもしれません。しかし、大工がいなければ家は建ちません。最近は建売が増加傾向にあり、家を建てるための技術がどんどん失われています。また、新築と言っても、プレカット工場である程度作った部品を現場で組み立てる工法が増えているのです。大工の手で墨出しをして木を刻むことが減ってしまっています。この状況を少しでも改善したいと、民生委員を通して中学校に、この仕事の魅力を伝えたりもしています。また、最近は人夫出しを増やし、得た利益を人材の確保・育成に活用し始めているところです。この仕事は、人々の夢を叶えるお手伝いをするほか、震災の復旧など、誰かの力になれる仕事です。事業を通して少しでも、建設業界の人材不足を解消していけたら何よりですね。

（2020年10月取材）

COMPANY DATA

キャスト住建 株式会社

広島県安芸郡府中町緑ケ丘13-7

建設業界の未来を明るいものにするために

▼近年、多くの業界で若手の人材不足が叫ばれるようになった。建設業界も人材不足の解決が急務となっており、今回対談で足を運んだ『キャスト住建』も例に漏れずだという。同社をはじめとする建設会社では、40代であれば若いとされており、この先10年後には職人たちの平均年齢はさらに上がることが予想される。

▼そんな状況を打破すべく、建設業界では多くの会社が対策に動き始めている。同社でも、長年務めてくれている従業員たちが年齢を重ねたことを受け、収入や待遇を向上させるために法人化を果たした。それにより、より大きな現場に入ることも可能になった。

▼山根社長は、大工の技術の低下は、大工一人あたりの単価の低下に起因していると考えて、この状況を変えていきたいのだという。技術が低下すれば単価はさらに下がり、悪循環が生まれてしまう。何故単価が下がってしまうのか、そしてこの状況を打破するためには何が必要なのか――今一度立ち返って考えた社長が出した結論は、「どんな現場だとしても良い物を作る」こと、そして「大工自身が交渉のテーブルにつく」ことだった。確かな仕事と、相応の対価は、大工としての責任の証。それを、大工一人ひとりが自覚することこそ、建設業界の未来への一歩となるのだ。

布川 敏和

（タレント）

山根社長は、快活なお人柄で、とても楽しく対談をさせていただきました。建設業界の人手不足は深刻な問題だと伺いますが、住宅は人間にとってなくてはならないものであり、それを作る大工さん方もまた然りです。社長のような建設業界の方々が築き上げ、守り継いできた技術が未来に続いていくため、若い人材が増えてくれることを切に願うばかりですね。

© 2021 HOUDOU-TSUSHINSHA Co.,Ltd.